



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# アヴァンティ

5

アヴァンティ社長の村山氏は、今後自社の経営をどのように進めていくべきか、コンサルタントの花山氏に相談していた。福岡の地で働く女性向けの情報誌を出版し、女性が活躍する社会をつくりたいと行ってきた活動は様々な形で結実していたが、途中5年間、公設民営の財団で館長に迎えられ、会社を離れていた間に、情報誌の売上が低下し先が見えなくなっていた。創刊23年の老舗であるアヴァンティが、今後この地で女性活躍の先導役として、そして企業としてやっていくためにはどのようにすべきかを、長年の友人である花山氏に村山氏は相談していた。

10

## 村山氏の独立

15

村山氏は国立大学の人文系の学部を卒業後、創業して3、4年の化粧品会社に勤務した。当時、4年制大学卒業の女性を大企業は採用していなかった。「民間企業でバリバリ働きたい。キャリアウーマンになりたい」と思っていた村山氏がやっと入社できたのがこの会社であった。当時、同学歴でも、初任給から男女差があるのがあたりまえであったが、この会社は男女平等の賃金制度をもつ企業で、当時の社員の平均年齢は24歳であった。インストラクターという仕事で毎日大変忙しく、自宅と企業との往復で毎日が過ぎていった。しかし村山氏の気持ちは満たされていなかった。毎日化粧品の仕事をしている人としか知り合わないの、社会情勢や文化芸術などについて語り合える人は周りにいなかった。村山氏の中で強い焦燥感が、時間を追うにつれて強くなっていった。他の企業で働いている人と知り合いたい、違う世界の違う価値観の人たちと知り合いたい、刺激を受けてレベルの高い人間になりたい、と思っていたが、どうやったらよいのかもわからない。そんなもやもや感を抱えたまま3年間が過ぎた。

20

25

本ケースは、巻末に示す文献と慶應義塾大学商学部教授 横田絵理によるアヴァンティ関係者へのインタビューと公開情報をもとに横田絵理が法政大学大学院イノベーションマネジメント研究科教授 高田朝子の助言をもとに作成した。

インタビュー調査およびケース作成にご協力いただいた、株式会社アヴァンティの皆様はこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本ケースはクラス討議の資料とするもので、経営およびリーダーシップの適否を例示しようとするものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 横田絵理（2017年5月作成）